

内科専門医に聞く

消化器内科部長 **やぎ みつる**
八木 満



ウイルス性腸炎Q&A



Q. 「この冬に噴水のように吐いて、水下痢もあったので受診したらノロウイルス腸炎と言われました。ニュースとかでは聞いていたけど、自分になるとは……。ノロウイルスについて教えてください。」(50代女性)



A. ノロウイルス腸炎での吐き下し大変でしたね。では少し解説させていただきます。

ノロウイルスはヒトに胃腸炎をおこす主要ウイルス(ロタ・ノロ・サポ・アデノ・アストロ)のうちの一つで、約50年前に米国ノーウォーク市の小学校での集団食中毒での糞便検体から初めて発見されたとされています。ノロウイルスは環境にとっても強く、食事時の胃(空腹時はpH2だが食事でpH3以上)では失活せず、腸に到達します。70%のアルコールでは5分以上、熱処理では85℃1分以上の加熱が必要とされています。塩素イオンにも強く、水道水やプールでは不活化されません。

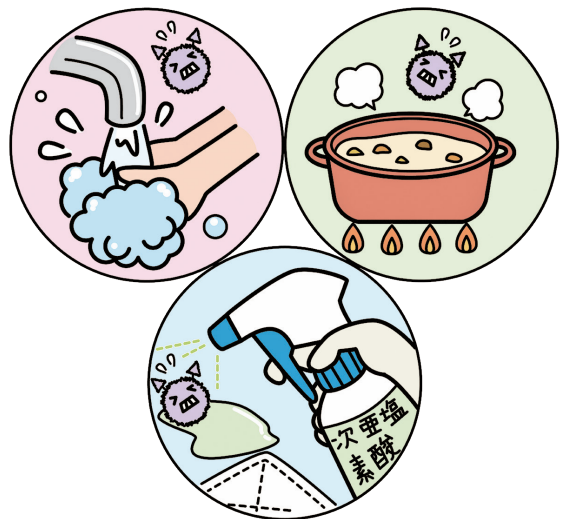
感染経路はいわゆる二枚貝を生で食べた場合と、ノロウイルス腸炎の方の吐物や下痢便を介しての接触感染が主になります。流行期は冬場で、潜伏期は12～27時間、症状の持続日数は1～3日で、基本的に予後は良好です。症状は嘔気・嘔吐・下痢が60～80%、腹痛が50%、頭痛・発熱・寒気が20～30%とされています。

診断は食歴・接触歴・症状を総合して臨床診断として「おそらくノロウイルス」とされることが多いです。医師が必要と判断した場合に抗原検査を行うことがあります。

保険適応は3歳未満・65歳以上のみであり、また陽性ならノロウイルス腸炎と言えますが、陰性でも完全否定は出来ません。より確実にはPCR検査ということになりますが、通常の医療機関では行えず、食中毒等で必要なときに行政機関や研究機関で行われます。

治療は脱水がある場合は点滴、なければ症状に合わせて吐き気止めや整腸剤が使用されます。特別な薬やワクチンは今のところありません。予防対策としては徹底した手洗い・食品の十分な加熱・まな板等調理器具の熱湯での加熱や次亜塩素酸ナトリウム(家庭用洗剤の薬品表示を参考)での消毒が考えられます。

みなさん気を付けていきましょう。



発行: 独立行政法人労働者健康安全機構 富山ろうさい病院 地域医療連携室

富山ろうさい病院だよりは、当院ホームページ(URL <https://www.toyamah.johas.go.jp/dayori/>)

にも掲載しています。

【お問い合わせ先】TEL(0765)-22-1280(病院代表)

E-mail chiiki2@toyamah.johas.go.jp



▶バックナンバーはこちらの

QRコードからも確認できます。